

昭和四十八年八月招集

第三回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議 会

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	報告第二号	議案第六十号	議案第六十一号	議案第六十二号	議案第六十三号	閉会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	三	四	三〇	三〇

一、昭和四十八年八月二十八日（火曜日）午前十時
二、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番	吉田 勇治郎	二番	林 豊
三番	流山 源次郎	四番	鈴木 木
五番	近藤 好雄	六番	栗原 一雄
七番	渡辺 昭夫	八番	石井 武敏
九番	辻田 実	〇番	渡辺 軍治郎
一番	山本 昇	二番	藤田 益治
三番	五十嵐 昇	四番	伊賀 多朗
五番	和田 一郎	六番	辻井 謹爾
八番	安西 益男	九番	島野 茂樹郎
二〇番	君塚 喜三	二一番	鈴木 市威
二二番	田村 源治郎	二三番	菊井 敏博
二四番	西村 真次	二五番	安沢 徳順
二六番	飯田 義男	二七番	望月 照正
二八番	田中 禄郎	二九番	秋山 六三郎
三〇番	番遠山 ヨネ子		

一、欠席議員 一名

一七番 宮野 敏朗

一、出席説明員

第二日目に同じ

一、出席事務局職員

第一日目に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和四十八年八月二十八日午前十時開議

日程第一 報告第二号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

日程第二 「議案第六十号 あらたに生じた土地の確認について」
「議案第六十一号 あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて」

日程第三 議案第六十二号 館山市乳幼児医療費支給条例の制定について

日程第四 議案第六十三号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算（第二号）

開 議 午前十時六分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十七名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

この際議事について申し上げます。本日の議事案件の内容説明は先日の会議に終わっておりますので、直ちに質疑より行ないます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、報告第二号安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出についてを議題といたします。

報告第二号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出につ

て

質 疑 応 答

○一〇番（渡辺軍治郎君） この質疑は議案の中にある補助金ですが、東部の市道に関係ある議案がありますので、そのときに関連で質問したいと思いますが、よろしくごさいますか。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございせんか。――御質疑なしと認めます。御質疑なければ次に進みます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十号あらたに生じた土地の確認について及び議案第六十一号あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについてを一括して議題といたします。

議案第六十号 あらたに生じた土地の確認について

議案第六十一号 あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございせんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。議案第六十号及び議案第六十一号については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託は省略することに決しました。

討論を省略したいと思いますが、これに御異議ございせんか。――御異議なしと認めます。よって討論を省略いたします。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより議案第六十号及び第六十一号を一括して採決いたします。

議案第六十号及び議案第六十一号を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって議案第六十号及び第六十一号はいずれも原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十二号館山市乳幼児医療費支給条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十二号 館山市乳幼児医療費支給条例の制定について

質 疑 応 答

○一〇番（渡辺軍治郎君） この条例案は市民の要望に基づいて出されたもので、市長の英断で、われわれ当面三歳児というように要望したんですが、五歳児まで無料化したということは全国でも例のないことだと思って、この点については高く評価していいと思います。

ただ問題なのは給付の問題ですが、窓口払いになっている現物給付を窓口で支払われないで済むという要望は前からしてきたわけですが、これが今回はいわゆる立てかえ払いというような形になっていますが、これは医師会との交渉にまつということですが、

これから先も医師会との交渉を続けて現物給付でできるようにそういう努力をされるのかどうか。

また要望としては、市民からそういう窓口で立てかえ払いをしないで済むようにという要望が強いのでこの点についてお伺いしたいと思います。

○保健課長（綱島憲治君） お答えいたします。当初私も現物給付ということで交渉をもったわけでございますけれども、現在の段階では現物給付は非常に事務的に難があるということでございます。まして、この点については両医師会の了解をとらうと得られなくて、やむなく現金給付という形をとったわけでございますが、将来どうしても現物給付の方向でやっていくように努力してまいりたいと思います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） もう一つですが、社会保険のほうは医師会からの証明があればすぐに金を支払うというようになことですが、国民健康保険の場合だと三月後になるということですが、かなり時間がかかるということでもっと市のほうの支払いが早くできないかどうか、こういう点についてお伺いしたいと思います。

○保健課長（綱島憲治君） これは医師会からの要望で、国民健康保険の内容は医師会のほうから国民健康保険連合会へ提出いたします請求明細書によってわかるから、国民健康保険の場合は請求明細書によって被保険者に払い戻しをするようにというのは、つまり事務を医師会の手をあまりわずらわさないということが条件でございます。そのためにこれは御案内のように二カ月後に私どもの手もとに審査をされたものが返ってくるわけです。それから私も内容は点検し、金額を確定し、通知をして取りにきてい

ただ、こういうふうな事務が入りますので二カ月後の十日、大體十日にくるわけでございます。ですからその間十日からすぐに仕事に取りかかりましても、十日ないし十五日ぐらいいはかかるだろうということでございます。しかし被保険者は一回市にすればお金がもらえる仕組みを考えております。

社会保険の場合はレセプトはこちらに返ってきませんもので、医者の証明を持ってくればすぐ払う。若干社会保険と国民健康保険の金を払い期間が違いますが、事務を医療機関のほうにあまり複雑にさせないということが向こうの最大の条件でございますので、やむなくこのような措置をとったわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原

案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第六十三号昭和四十八年度館山市一般会計補正予算案を議題といたします。

議案第六十三号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算（第

二号）

質疑応答

○一〇番（渡辺軍治郎君） 二つばかり質問したいと思いますが、ひとつは歳出面の博物館の寄付の五百万円の問題ですが、これは当初予算のときに県の事業に対して県から寄付の要請があったというふうなことで、当然これは県が負担すべき事業費というものを市の寄付に仰ぐということは地方財政法にも違反するということとで反対したわけですが、この地方財政法にある点をどういうふうにお考えになっているのかお伺いしたいんですが。

地方財政法の第二条では「地方公共団体は、その財政の健全な運営に努め、いやくも国の政策に反し、又は国の財政若しくは他の地方公共団体の財政に累を及ぼすような施策を行なつてはならない。」というふうに規定されております。さらに第九条では「地方公共団体又は地方公共団体の機関の事務を行なうために要する経費については、当該地方公共団体が全額これを負担する。」というふうに規定されております。また二十八条の二項には、「地方公共団体は、法令の規定に基づき経費の負担区分が定められている事務について、他の地方公共団体に対し、当該事務の処

理に要する経費の負担を転嫁し、その他地方公共団体相互の間における経費の負担区分をみだすようなことをしてはならない。」
 こういうふうに地方財政法ではそれぞれの経費の負担区分をはっきり規定しているわけです。こういう問題についてどうお考えになられているのかお伺いしたいと思います。

それからもう一点は、九ページの東部地区基盤整備設計費補助として負担金及び交付金とのこの分の中で二百四十万円支出を見こんでありますが、これは箱橋のところから広瀬のほうにかけての基盤整備のために、そこにあった市道が位置を変更するため市道の、説明では市道の拡張のための土地買収費というようにことで市に対してこの補助を要求したと思うんですが、大体いままでの耕地整理や基盤整備の場合になわ延びがあるのが当然なんです。土地買収費を含めてというふうに説明されましたけれどもなわ延びの関係はどういうふうになっているのか。おそらくこれは山本の基盤整備のときには相当のなわ延びが出て、いまある倉庫や精米所というところはなわ延びの土地によってつくられていると思うんです。

こういうのは、どこでも耕地整理をやればなわ延びが出てくるのが当然で、また道路の整備についても当然耕地整理をやればそれに便利のようにやはり道路というものは計画されると思うんです。ですから市道とはいってもかなり圃場整備にある程度必要なそういうものが含まれていると思うんです。そういうものを市の補助にもっていくというふうなことにについては若干疑問があるわけですが、当然これは圃場整備というふうな中で整備される、その予算の中で整備されべきもんだと思うんですが、この点はどうい

うふうにお考えになるのか。

関連で質問しますが、これは最初に申し上げましたように中央土地改良区の決算と予算の報告がありました、これに関連してお尋ねするわけですが、市が年々中央土地改良区に対して二百万円ずつの補助金を出しているわけです。さらに二億九千万円の債務補償をしている。当然この土地改良区は独立採算でいく性質のもんだと思うんですが、市が相当の経済的な援助、あるいは負担をしていくというふうな関係で当然改良区の経営状況の報告がやられていると思うんですが、その中でそういうふうな関係にありますので一応お伺いするんですが。

大体決算と予算とを見ましても大きな費目としては賦課金の収入と借入金が大部分の収入になっているわけです。そして支出のほうを見ますと負担金が必要な支出になっております。決算を見ても九千六百万円が負担金になっている。収入のほうでは賦課金が四千八百万円の借り入れが七千六百万円、こういうような形で大体多くの収入が賦課金と借入金で、中央改良事業負担金として九千六百万負担金の支出に回されているわけです。

そういう中で市が二億九千万も債務補償しなければならぬというふうなこういう状態、そしてこれを見ますと賦課金の未収欠済額が九百二十三万九千円あるわけです。最近では市街化区域が相当広がっておりますのでそういうところの農民が土地の水利権とか土地の圃場整備とかというふうなことに對して非常に消極的な態度があるわけです。当然そうなりますと賦課金の徴収が困難になってくるのではないかと。支出の面にいきますとこの賦課金の徴収手数料や奨励金として三百八十五万二千円が計上されております。

そうしますと賦課金の徴収がかなり困難になって、こういう経費を見込まなければならないような状況にあるのではないかということが考えられるわけですが、この農家の負担は水利権、いわゆるダム等の問題とそれから土地開墾整備はこれからやられるところはかなりありますが、農民の負担が反当どのくらいになっているのか。これは二十年近くなると思うんですが、当初予定したのとの後の資材の値上がりというものを含めてかなり大きな開きが出てきているんじゃないかと思うんですが、この農家の負担がどの程度になっているのか。そういう点についてひとつお伺いしたいと思います。

それからいままでの市の債務補償が二億九千万ですが、一体こういう債務補償がこれからだんだんふえていく傾向にあるのかどうか。

先ほど申し上げましたように経営も賦課金徴収は困難、あるいは市街化区域の拡大によって農家の農振法に対する考え方とか、そういうものにもかなり変化が出てきておりますので、要するにこの中央土地改良区の今後の経営がほとんど借り入れにまたなければならぬようになるのではないかと、そういう懸念もあるわけですが、一体この館山市がどれだけこれから債務補償をしていかなければならないのか。そういう点に対してひとつお伺いしたいと思います。

それから、さらに予算の中で事務費として、これは二二ページから二三ページにわたっておりますが、理事長の報酬が三十六万計上されております。さらに理事長の手当として三十万計上されております。合わせますと六十六万円の報酬、手当が理事長にわ

たることになっております。この理事長は高木収入役が理事長を兼務するようになっておりますが、この点についてお伺いしたいんですが、地方自治法の百四十二条、前文を省略しますが、地方公共団体において経費を負担する事業につきその団体の長をしてやってはならないということが百四十二条にかかれております。さらに百六十八条の七項には百四十二条の規定は収入役にこれを準用する。こういうことになっております。第八項では収入役が七項において準用する百四十二条の規定に該当するときはその職を失う。こういうふうに規定されております。ただし、これを決定するのは地方公共団体の長がこれを決定しなければならぬ、こういうふうになっておまして、決定する権限は市長にあるわけですが、この兼務といっても中央土地改良区の理事長となると相当専任的な仕事をしなければならぬと思うんです。これは公務員法からみても公務員は自分の事務に専念することを義務づけられておるわけですが、上級特別職といってもこれは常勤に等しいそういう位置に置かれておると思うんです。こういう規定からみて一体収入役が土地改良区の理事長を続けること、またこれをきめたこと、これは市長が決定しているわけですから、その経緯はどうなのか。今後これは続けるのか。そういう点についてお伺いしたいと思います。

○社会教育課長（佐野哲男君）　ただいまの博物館の寄付についてお答えいたします。博物館のことにつきましては三月のときにも申し上げましたが、館山市といたしましては博物館の建設の必要性というものをかねがね考えておりましたわけでございます。県のほうの建築の計画に基づきまして県南に建設するというような

方向がきまりました。こちらのほうへ誘致したというよりなわけでございます。そのためにこれができるかと学校教育の面や社会教育の面、あるいは観光的な面からみたいへん。館山市としては意義あるもの、ここに計上したわけでございます。

○農産課長（石井 謀君） 質問の第二点の東部地区の基盤整備の二百四十万に対する御質問でございますが、先ほどの御質問の内容は道路の拡幅、あるいは改修、そういうようなものについてはなわ延びの関係でそれを施行したらいいじゃないかというようなお話でございますが、基盤整備をいたしまして、換地の場合にはなわ延びの分、そういうようなものを一切含めまして換地するのが原則でございます。

そういうことで、たとえば台帳面積から実測面積を比較いたしますと、その場合に換地の歩合比率が一〇五％になる場合もあるわけです。あるいはなわ延びの多い場所では一一〇％になる場合もあるんです。そういうことで一応換地の面積はいたすわけでございます。市道拡張分についてはそういうようなものから出せということとは別にないわけでございます。そういうようなことでたまたま受益者の強い要望がございますので、その基盤整備と合わせまして市道の拡幅、あるいはその事業を実施するわけでございます。用地の買収、そういうようなものをこの事業の中で実施していただく、こういうような考え方で補助金としてお願いするわけでございます。

その次に末収残金が九百二十三万九千円というようにございまして、これは市街化地域関係の末収金ではないわけでございます。ダムをつくりましますときに館山市、三芳、丸山地域の千百

余町歩の区域を決定いたしました時点において丸山地区の一部、あるいは館山市の中の一部、この地域が丸山のダムに部落で賛成をしなかったわけですね。そういうような関係で法的にまいりまして三分の二以上の同意があればその地域に決定されるわけですね。一部の地域がそういうような関係で負担金を部分的に支払っていないというようなものが積み重なってこういうような数字に相なるわけでございます。最近になりました逐次そういうような部落の関係者との話し合いができてまして、加入等も見通しがつきまして分割的に納入されるような方向になっておるようでございます。

それから農家負担はどのくらいかという御質問でございますが、これは借入金と毎年賦課金で納入しております金額の合計をいたしますと十アール当たり八万九千五百余円、その次に借入金の関係で二千九百万、今後ふえていくかどうかという御質問でございますが、丸山ダムの関係につきましては現時点では四十九年度を目途に完成の目標でございます。そういうことでダムが完成をすればもちろん借入金もないわけでございます。あとは返済一方でございます。ただし、各受益地域に基盤整備を行なうてまいりますその関係がやはり事業費の八〇％、現時点においては八〇％程度融資ができますので、この点については農林漁業金融公庫からの要請があれば今後もそういうことで考えられるわけでございます。以上であります。

○市長職務代理者助役（皇山 伝君） 御質問の収入役の兼職禁止おことばの百四十二条の関係でございますけれども、これにつきましては市と収入役は当該公共団体に対しての請負をすることを

禁止した条文でございますので、土地改良区としての請負関係が生ずるものではないわけでございます。

なお、収入役は地方公務員法が適用されませんので、いろいろ衆議院議員とか地方公共団体の議会の議員の兼職、または請負等の禁止規定には該当しない限りこの職についての法的な制限はないということになっておりますので、御案内のように法的には差しつかえないわけでございます。

なお、当該収入役につきましては当然公務員法の適用がございませんけれども、常勤特別職でございますのでその事務に支障のない限りにおいて市長が許可するわけでございますが、なお、理事長の報酬につきましては、これは常勤についての報酬ではなく理事長としての責任度合いに対する報酬というように解釈いたしておるわけでございます。

○一番（渡辺寛治郎君） 最初に博物館の寄付の問題ですが、館山市にとっても確かにはいよりはできたほうがいいわけです。しかし水族館がつくられるときも館山市の観光にとってプラスになるということがかなり言われましたけれども、あの水族館ができただけで観光に役立っているかというようなことがあまり実証としてはないわけです。博物館もこれからの問題ですが、これは県の事業ですから、県が当然経費の全部を負担すべきものだというところで、地方財政法の二条、九条、二十八条を出したわけですが、これに対してどう考えるかということを開いているわけです。

寄付云々の問題よりも、こういう規定があるのに県が寄付を要求するということは、県自体がこの法に違反しているわけですよ。

ね。それに市が従うということも、これまた無見識のことだと思ふので、その点をお尋ねするわけですから、そういう見解についてお答え願いたいと思います。

それから、東部圃場整備の負担金ですが、私が聞いたのは、どこでも圃場整備やると縄延びが出る。その縄延びがこの圃場整備でどのぐらい出たのか。道路敷の幅を拡張した土地と面積が大体とんなら道路の拡張するための土地買収ということはないわけです。その点を聞いています。縄延びが出るのが普通なんです。その縄延びが出た分は換地としてというようにいいます。その土地でもないわけですから、そういうようなものを道路の拡張にまわせば、何も土地買収しなくても済むわけです。

だから、道路敷として拡張する面積が、縄延びとの面積の関係でどういうふうな関係なのか。要するに縄延びの土地が道路の拡張するための土地より多いのか、少ないのか。そういう点を聞いています。縄延びがでるわけですから、そういう縄延びがあるとなれば、何も道路を広げるための土地買収はしなくても済むわけなんです。説明では、そういうものを含んで、この二百四十万というものが出てきているわけですよ。当然市道ですから、市の責任でやらなければならぬんですが、市道の変更というのは、その土地の基盤整備の都合でやられるわけですから、館山市がやったわけではないんですよ。中央土地改良区の必要でこの市道の変更しているわけですから、そういう点については当然土地改良区の負担でやるべきもので、市に対して二百四十万要求するということはおかしいんじゃないか。こういうことなんです。

ですから、繰延びがどのぐらいあって道路拡幅するための土地が何坪なのか。こちらの点がはっきりしないと説明つかないと思いますよ。

それから、借入金の問題ですが、その前に反当幾らという問題ですが、私が聞いたのは、当初の計画ではこんな負担にはならないかと思うんですよ。だから、それが十八年もずっと延びてその間には経費やいろんなものがかさんで反当負担というものは相当増加しているかと思うんですよ。そういう点では計画をした事業が計画どおりにいかなかったために、こういう負担金が増加しているというふうにみるのがこれは当然だかと思うんですよ。その関係をお聞きしているわけです。

ですから、計画どおりに物事が進まないということは、借入金があふえていくということにもつながるわけです。ですから、市の債務補償が二億九千万円という相当大きな額ですよ。ですから、今後この債務補償がそういう関係であふえていくのか。これをお聞きしたわけで、それは今までの経過から見てもどうかということですよ。最初の計画と現在の反当負担というものは相当違いがあるかと思うんですよ。計画どおりにいかなかった実情がその中には出てくるかと思うんですよ。だから、お聞きしているわけです。

もう一つは、収入役の問題ですが、市長代理はこれは百四十二条に該当しないようなことをいわれましたが、該当するんですよ。それは百六十八条を見てください。百六十八条の七項と八項、七項には「百四十二条の規定は収入役にこれを準用する。」ということになっていんですよ。長の兼務をここでは禁じているわけですが、しかし百六十八条では収入役もそれに該当するようになって

いんですよ。これはだいたい説明が違うかと思うんですよ。

八項には、七項において準用する百四十二条の規定に該当するときはその職を失うと、こういうふうになっているんですよ。これは市長がきめることです。だから、その経緯を聞いています。こういう規定があるのに一体どういうふうな形で市長がきめたのか。今、報酬六十六万円は責任に対する給与だ。こういうお答えですが、当然市として人件費としてそれだけ払うわけですから、兼務としては相当大きな金額だかと思うんですよ。一人の常勤職員を置くぐらいの金額ですから、そういう金額を支出しているわけですから、これが地方自治法に照らして妥当かどうかということをお聞きしているわけなんです。その経緯を聞いています。市長代理のいう百四十二条に該当しないなんて、これはもう答弁になりませんわ。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えいたします。

博物館のことにつきましては、先ほど申し上げましたようなことで、館山市にきわめて有利になるという判断と、むしろ積極的にこれを活用して、先ほど渡辺議員さんのお話しのございましたように、水族館ができて大した役に立たなかったというようなことですが、これからそういうようなものに役立てるような方向に進めるといふ観点からこちらのほうから誘致し、寄付をするというようなことで前回にもお願い申し上げたわけなんです。地財法のくわしいこと私もよく存じておりませんけれども、先ほどのお話しのようなことからしまして違反してないと私は思います。

○農産課長（石井 謙君） 東部圃場整備の繰延びの関係で道路の

どのぐらい出ておるかというような御質問でございますが、総体的で三百六十余町歩のものを逐次年度別に実施しております。その関係で、三十七年度に実施いたしました分がこれだけ繰延びがあったということは現時点ではまだ私は掌握しておりませんが、一応市道の現況のものを今後計画的に拡幅していきます。その面積を計算いたしますと、現況面積が七〇、二八一平米現況の道路があるわけでございます。そこに今後市道として拡幅したいというような計画が九七、〇二三平米あるわけでございます。したがって、二六、七四二平米というものがこの圃場整備の地域内から市道になっていく。こういうようなことでございます。

それから、二つ目の当初の計画からだいぶずれがあるということとでどのぐらいの開きがあるかということでございますが、私は当初の計画については全額で約十億の予算でやるということは聞いております。

現時点におきまして、二十五億四千七百万円が一応最終年度の目標でございますので、約二・五倍強ということになります。こういうような形になるわけでございます。この事業の二五％に匹敵するものが受益者の負担に相なるわけでございます。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） ただいまの御質問に対してお答え申し上げます。

地方自治法の百六十八条の七項の規定によりまして、百四十二条の長の兼業禁止規定は準用されております。長の準用規定というのは、兼業禁止規定というのは長の請負の関係です。ですから市に対して請負することは市長はできません。収入役もできません。それから、市が経費を負担しておる団体の長に対して請負す

る者にもなっていない。なることはできないとあります。

したがって、この関係につきましては、この土地改良区と市との間には何ら請負関係はないというようなわけで、私はこれに該当しませんと申し上げたわけでございまして、確かに百六十八条の七項によりまして、収入役は長の兼業禁止規定に準用されておることは事実でございますけれども、これは請負禁止の条文でございますから、これに準用されるので、収入役も請負禁止の適用になるけれども、市長と同じになるけれども、当該土地改良区との市との関係は請負ではないということを私は申し上げたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君）

寄付の問題は、課長さんの説明では納得できないわけですが、これは地方財政法に基づいて質問しているわけですから、県のほうはいってらるんですよ。議会なんかで県の事業に対して寄付を地方団体に求めない。はっきりそういうことをいってらるわけですから、県がそういうことを公表しているのに、県自体が寄付を押しつけてくること自体が財政法に違反するばかりでなく、県が公表しているそういうことに違反しているわけですよ。そういうことを是認するという、それはよそでこの前の説明では鴨川あたりでも運動が起こったから市のほうに持つてくることで有利だから頭を下げたような、そういう御答弁ですが、問題は、地方財政というのはいかに逼迫しているわけですよ。何かやろうとしても予算がないというふうに、財政状態が非常に苦しい。そういう中で一千万円も建設に要する費用を、県はやらなといったおるのに押しつけてくる。矛盾があるでしょう。

これは、そういう点を市のほうで、また県のそういう違反して

いることにいうままになっているというところに問題があるんじゃないか。そこを追及しているわけなんですよ。

それから、繰延びの関係ですが、三十七年度に三百六十余町歩の圃場整備をやっているのだけれども、繰延びの状態がはっきりしないと、これは三十七年度、三十八年度にかけてやっているんですが、どのぐらいの繰延びがあるか、それもわからない。それで、市道の拡張については土地買収費を見込んでくる。当然繰延びがあれば土地買収しなくてもやれるはずなんです。そこを問題にしているわけですよ。

それから、当初の予算が十億のやつが二十五億七千四百万円にもふくらんできているということは、当初の計画と現在の計画がこんなに大幅にひらいているわけですよ。したがって、農民の負担というものが二五％といっても金額にすれば相当大きな負担になってくると思うんですよ。そういうことから、こういうふうに計画が狂ってくるという、これからも物価がどんどん上ると思うんですよ。そういう中では当然変化が起こるだろうし、市の債務補償が二億九千万がもっとこれはふえる傾向にあるのかという、そういう歴史的な経過から聞いておるわけですよ。

それから、市長代理のいつている地方自治法に関する問題ですが、百四十二条には、こういうふうに書いてあるわけですよ。「当該普通公共団体において経費を負担する事業につき、その団体の長」こうなっているわけですよ。館山市が土地改良区の経費を負担しているのかどうかということが一つの問題になると思うんですが、そこで、毎年二百万円ずつの補助金を出し、二億九千万円の債務補償をしているということを考えますと、この「経費を負担する事業につき、その団体の長」こうなっていますから、当然経費を負担するといふふうに見るべきではないかというふうに考えるわけですよ。ただ、請負だけの問題ではないはずだと思っ

たす事業につき、その団体の長」こうなっていますから、当然経費を負担するといふふうに見るべきではないかというふうに考えるわけですよ。ただ、請負だけの問題ではないはずだと思っ

です。そのあとのほうに請負関係のことが出ていますが、中央土地改良区の、少なくとも債務補償や補助金を出して経費を負担しているわけですから、債務補償だって借金が返済できない場合は市が全部払うことになるわけでしょう。

そういう点から見ると、これは当然収入役が常勤特別職にあって収入役に専念しなければならぬような人が、中央土地改良区の理事長を、これは責任手当だといふようなことをいっても、これは常勤職のようなそれに該当するような給与の支払いが出ているわけですから、そこを問題にしているわけです。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

百四十二条の「経費を負担する事業につきその団体の長、委員会もしくは委員もしくはこれらの委任を受けた者に対し請負をする者」になることができない。こういうことでございますね。

ですから、請負するところの長、こういう関係のあるところの長になることができない。こういうふうに解しております。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十 時五十七分 休 憩

午前十一時二十五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

ただいま、収入役と安房中央土地改良区との理事長との関係でございますが、これにつきましては法的にはさしつかえないと思

っておりますが、なお渡辺議員さんのおっしゃることの御趣旨もよく推察できますので、今後市長とも話し合ひまして十分相談していきたいと思っておりますので、御了承いただきたいと思ひます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君）　ただいまのお答えで、法的の問題としては当然議員とすれば、この百四十二条の経費を負担するそういうような団体についての問題として当然これは疑問が持たれるのはあたりまえだと思ひます。

解釈の問題ですから、この問題は一応置くとしても、ただ問題は、中央土地改良区と市との関係が現在でも二億九千万という債務補償をしていますし、年々二百万の補助をしていますから、経済的に非常に密接な関係があると思ひます。そういうことと、収入役はやっぱり一応特別職とはいひながら公務員に準ずるそういう職にあると思ひます。当然公務員法によってその事務に専念する責任があると思ひます。

それが、兼務といつてもちよつとしたような兼務ならば別ですが、けれども、六十六万の報酬、手当をもらつて兼務するということでは、理事長としても相当の仕事を負担するわけですよ。先ほどの説明では責任給として出しているというようなお答えがありましたが、利害関係が市と非常に強く結びついているという問題では、今後債務補償もふえるような傾向にあると思ひます。

中央土地改良区の、さつき御答弁聞きましたけれども、現在でも十億が二十五億にふくらんでいるわけです。計画よりも物価の値上り考へれば、当然もつとふくらんでいくというようなことで借り入れ金額もふえる傾向にあると思ひます。まだ終つたわけではな

いわけですから、これからやるわけですから、そういう深い結びつきのある中央土地改良区の理事長を収入役がやるということはこれは政治的に見ても、道義的に見ても問題があるかと思ひますので、こういう点はひとつ市長さんとの話し合ひの中で、ちょっと問題があると思はれるようなことについては避けたほうがいいんではないかというようなことをお願いしてこの問題については終りたいと思ひます。

それから、中央土地改良区の東部の園場整備の問題で、繰延びの関係ですが、これがどのぐらいあるかわからないというようなことで、道路の拡張についても当然土地改良区の必要性から起こつたことで、何も市のほうがあそこに道路をつくるという積極的に出たわけではないわけですから、当然土地改良区のほうで処理すべき問題だと思ひます。この繰延びの面積がおそらく道路拡張ぐらいの面積に相当するぐらいのものが出てくるのではないかと思ひます。そういう点については、私は二百四十万の支出については納得できないわけです。

それから、寄付の問題についても、先ほどの答弁では、これは当初予算でも主張しましたけれども、財政法に違反するようなことがそのまゝまかり通るというようなことは、これはやめていかなければならない問題だと思ひます。こういうことを許しておけばこれはそれだけじゃなしに、ほかのいろいろなことでも県の単独事業に対する負担金を財政力の弱い市町村に押しつけてくるといふようなことがとめられないわけですから、そういう点で私は館山市の財政状態を考へて、その上に立つて当初予算でも反対してきたわけですから、この点についても了解できません。

以上で質問を終わります。

○九番(辻田 実君) ただいまのに関連して、まず最初に、土地改良区の収入役の兼職の問題について補足質問をいたしたいと思つておられます。

まず、法的な問題、その他の関連については、ただいま一〇番議員との討論がありましたので省略いたしますけれども、この就任について何月何日に土地改良区の理事長に選任されたかということをもつて第一点。

それから、第二点といたしましては、市長がいなくてちょっと困るんですけども、助役さん聞いておるかどうか。その点お伺いしたいわけですが、兼職するにあたりまして勤務、報酬これらの問題について話し合いをしたかどうか。

一般的にいうと、労使間だったら、収入役の場合には労働者じゃありませんけども、労働協約そういうものはないかと思ひます。しかしながら、当然収入役やって、理事長をやった場合、何日ぐらい、どの程度の用務をもってむこうに出向しますよとか、そういうことがないということはあり得ないと思ひます。報酬についてもかなり多額のものをもたうわけですから、これはこれだけいただくけども、一般の職員、その他については、たとえば国家公務員法なんかの場合、五千円以上ですか年間もらうと、それは必ず届けて人事院の許可を得なければならぬ。こういうのがあつていいわけですか。

しかしながら、収入役はないにしても、市長に対して専任収入役としての報酬を市からもらっているわけですから、そうしてさらにその上にそれなりの報酬をもらうわけですから、責任料だと

いうことになりますけれども、専任ということとは兼務しないことが原則ですから、そこらへんについての報酬の問題等についての話し合い、了承事項があつたのかどうか。

その他、この理事長に就任することによって、先ほどの答弁ですと、責任ということが非常に強調されて、責任に対する報酬云々ということでもございましたが、耕地整理組合におきますところのいろいろの責任問題が出た場合、たとえば工事がうまくいかなかったとか、不幸にして汚職だとか、不良の工事があつて大きな欠損が出た。その責任は理事長という形で当然出てくるわけですが、そういう点について収入役をやつておることに対してかなりの影響も出てくるんじゃないかという面もあるわけでございますから、責任、権限の問題等について申し合わせ事項、協議事項そういうものがあつたかどうか。

新聞紙上で見ますと、五月頃就任したということが新聞に出ておつたわけでございますけれども、今日に至るまで市議会議長等に対して、市議会で承認された収入役でございますから、ある程度今私が申し上げた事項について、私がここで質問するまでもなく、当然市長が報告するのが私は道義だと思ひます。

それが今、この議場でもつてこういう事情報告書が出てくる中において指摘されて、それが法解釈云々とか、やれどうこうという形が出てくることについては私は非常に残念だと思ひます。

これについては明瞭にすることが、この種の問題を今後円滑にするのではないか。この問題はそのまま決着がついたにしても、なにか法的疑義、その他の道義的問題が残つて、収入役自身が現状のまま収入役を継続していくことそのものが非常にやりづらい

んじゃないか。なにかうしろ髪を引かれる感じがするんじゃないか。私はこの際、そういう点をすっきりして、そういう点について全く疑義を残さずに、きょうからでも十分収入役の業務を運用されるのが適切だと思うわけでございまして、その点については助役は聞いておるのかどうか。そういう覚え書きが人事課、秘書課そういうところにあるのかどうか。その点についてお伺いしたいわけでございます。

○市長職務代理者助役（梶山 伝君） 理事長の就任は昭和四十八年の三月六日でございますが、ただいま理事長の兼職にあたっての勤務、報酬について、あるいはまたどの程度の時間について話し合ったか。あるいはまた責任問題につきましても問題、また収入役は市議会で承認されたものでありますので、当然市長から議長さんに報告すべきだ。一々ごもっともでございまして、これにつきましても、私は市長とどの程度の話し合いがなされたかはたいへん申しわけありませんが、承知しておらないわけでございますけれども、ただいま辻田議員さんのおっしゃることは非常に重要なことでございますので、これをそれだけに本人もつとめいよくにすっきりさせべきであるというおことばでございすけれども、本日はたいへん申しわけないんですが、市長がそういうことでここにおりませんので、それも合わせて市長に十分申し上げて伺い、また話し合いましたして善処するようになりたい。かように考えておりますので、きょうのところは御了承願いたいと思います。

○九番（辻田 実君） その点については、そういうことでもってひとつ市長に伝えて、後日この点について御報告を願いたいと思います。

それから、さらにさかのぼりまして、この収入役就任についてこのような疑義が出るということ、そのことについてまだ私は原因があると思いますが、ここで伺っておきたいことは、館山市の収入役これも収入役自身が館山市の職員を経験しないで、どっかの会社の役員とか、どっかの団体の役員やっておって、それを引き抜いて収入役に就任されたというケースなら、私は前歴によるところのいろいろなそういうものがつきまってくることにについては、私はあり得ると思います。

しかしながら、高木収入役については長年市の課長をつとめられて市の職員としてやってきたわけでございます。市の職員時代においては当然兼職というものについては一切できません。自分の家の家業が魚屋であろうが、たばこ屋であろうとそれを手伝うことも判例上禁止されております。そういうきびしい中で収入役になったわけでございますから、課長からそのまま退職せずになつたという経緯があるわけであります。

そういう中において、私はどう見ても土地改良区の理事長に就任する場合に、土地改良区の理事長をはじめ役員が収入役にぜひひとつなっていたきたいということで、本来なら所属長等についてお願いするというようなケースが非常に多いのではないかと、いうふうに思われます。

そうして、それに対して所属長がそれに対していろいろ私が申し上げたような権限の問題、勤務の面、そういう面についていろいろ話し合って、その程度ならいいでしょうということでもってお願いするというケースがあり得るわけでございますが、そういう形で行なわれたのかどうか。

それとも、総会の席上任命されたということでもって事後報告の形の中で市長への単なる報告だけの事項であったか。これがかなり問題じゃないか。

今回のケースの場合には、事後のようなケースが多いような気がいたします。そうなってくると、今いったような問題というのはかなりおろそかにされておって、おろそかにされておることが今後の業務運営、その他に問題が出てくるように思われますけども、その点はどう聞いておるか。

それから、もう一つそれにつけ加えて考えられますことは、市のほう为数億の債務補償また設立当時から毎年補助金を交付、十何年にわたってきている団体でございますので、市の職員を役員として出向させるというような意図があつて、そういう中から行政機関としてある程度出向的な意味をもってやったのかどうか。水道課の職員とか、水道企業職員のような形、開発公社の職員のような形で、市の行政機関の中から館山市が相当多額の債務補償、補助金を出しているの、それに対して直接監督がいき届くような形で出向形式でもってある程度了解しておいて理事長就任というものがあつたかどうか。そういうようなことについて聞いておるのかどうか。その点について伺いたいします。

聞いておらなかつたら、その点市長に伝えてもらつて、市長の回復次第、次の議会等で明らかにしてもらふことが非常にいいことだと思いますので、助役の知っている範囲内で御答弁いただきます。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） どういうような経過をたどつてなつたかということにつきましては、たいへん申しわけない

んですが、私聞いておりません。

なお、債務補償等多額に行なつておることは事実でございますが、出向というような意向を持ったかどうかにつきましては、これは私聞いておりませんから、自分の想像はやめますけれども、聞いておりませんので、これも合わせて市長に十分申し上げていきたいと思ひます。よろしく。

○九番（辻田 実君） その点について、助役の問題じゃございせんけれども、市長に対して伝達する場合にいたただきたいことは、三役段階においてそういうものが理解されていないといふのは、三役チームワークの不徹底だといふふうに感じます。

収入役が仕事で出るとか、土地改良区の仕事に出るとかいうことがある場合には、助役等がある程度監督しなければならぬという管理者、三役のあるわけであつて、どの程度の仕事にどう出るという了解事項がその中でなされておるぐらひは半年たつておるわけでございますから、そういう点についてはひとつ市長について十分そういうことを助役にも話をするようにしていただきたいという要望があつたことを伝言していただきたい。

その上に立つて、先ほどの回答をいづれかの議会においてやっていたきたいといふふうに思ひます。

その件については、収入役の身分問題等に関することについては、これ以上討論しても結論は出ませんので打ち切りたいと思ひます。

それに関連いたしまして、この東部地区基盤整備設計費補助でございますけれども、説明の中でまいりますと、一千七十二万の設計だといふことでございます。それについて幾ら出すのかわ

かりませんけれども、第一回分として二百四十万という説明があったわけでございます。第一回分ということはどういう意味なのか二回、三回がどれだけ出るのか。今までの例からいって、館山市はこの種の問題については相当の補助金を出しているわけでございますけれども、千七十万の八〇%なり、九〇%、二回、三回出していく予定なのか。千七十二万の設計費の分担というのは丸山、三芳それらの土地改良区傘下の自治体等との話し合いで配分なり比例というものがあるのかどうか。この点についてお伺いをしたいと思います。

○農産課長(石井 謀君) 設計費の二百四十万の第一回分の関係につきまして申し上げます。

この設計費総額につきましては、総休面積が三二六ヘクタールあるわけでございます。そのうちで館山市の面積が二七六ヘクタールでございます。三芳が五〇ヘクタールで合わせて三二六ヘクタール、その土地改良の設計に要する経費が総額で千四百十九万八千円かかるわけでございます。そのうち県からこの費用に要する補助としまして百五十三万六千円の助成がございます。差し引きまして千二百六十六万二千円地方負担になるわけでございますが、そのうち三芳で負担いたします分が五〇ヘクタールで百九十四万円、館山市の分が千七十二万円に相なるわけでございます。これは、私どもの考えでは一千七十二万円全額を補助金として出したいという考え方を持っておるわけでございます。というのは、先ほど申し上げましたように、市道拡幅する場合についてはその各受益者が当然配分を受ける面積を市道に出すわけでございます。その拡幅工事等国、県の助成もございます。しかし受益

者の負担がその中にあるわけでございます。そういうような関係で全額を補助したいということでございます。

○九番(辻田 実君) 今まで、土地改良区の問題については、はじめ事務費の補助金じゃなくて貸付金のような形のもの、のちには補助金として交付するというようなことも十年ほど前にはあったわけでございます。そのつど、非常に改良区の問題については補助、補助でもって全部館山市を中心にして大体八、九〇%が補助していきながら、全く直営のような形の中でもって運営されてくる点について、これを一刻も早く独立採算でいくようにという形がそのつどやられてきたんじゃないかというように考えられます。私が出てなかつた四年間の間、どういう経過をたどっているかわかりませんけれども、今から十年前から七、八年前までは、そういう形でもって非常にこの問題、支出金そのものについての補助金について問題があったわけでございますけれども、そういう経過、反省というものが私はないような気がするわけでございます。

それで、そういう面で、どうも土地改良区の場合には必要経費があればかまわず市町村にもっていけばというようになことで、それをほとんど市においてもいろいろ注文があるけれども、今後改善しますというような形の中でもって継続されてきておる。もうすでに十何年間そういう形でもって支出された額は相当膨大のものがあるんじゃないか。

私の記憶でございますけれども、最初のうちは相当収益があがってくるようになれば、相当返済もできるという形もあったわけでございますけれども、それもとにかくそういう見込みがないからと

いうことで補助金に切りかえるということも一、二あったわけですが、そういう点がやはりここにあったんじゃないかというふうに思われるわけでございます。

そうして、この報告書を見ますと、四十八年度の事業計画については一億三千万、施行面積が七三ヘクタールということでございます。この予算等について設計費というものが全部計上されておらなかったわけでございますけれども、この設計費がここでもって補助金として出されるわけでございます。

そうすると、館山の場合には、今回の場合には二百四十万というところでございます。実際にこの設計ということは千四百万余出るということでございますが、この差額金については借入金であるのかどうかということ。それとも設計事務所に対して月賦で払うのかどうかという疑問がありますけれども、これが第一点。

それから、設計に対するところの決算、会計、口座これはどこでやるのか。当初予算に全く存目もないというふうに見受けられるわけですが、この設計費については特別会計を設けるのか。なにかない中で別に出てくるということとはふしぎな感じがするわけでございます。これが全額入ってツーパーでいけば仮決算ということになるかもしれないけども、館山市でもって千七十二万負担するうちの今回は二百四十万負担する。その差額分が来年なり、またいつかの時点で入れなければならないわけでございます。そのつど、決算をしていかないと明確にならないというふうに思うわけでございますけども、その口座が見られませんが、どのようにして設計費の決算はしていくのか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後は一時開会といたします。

午前十一時五十三分 休憩
午後一時十三分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

○農産課長（石井 謙君） 辻田議員さんの東部地区設計費の經理の關係についてお答え申し上げます。

東部地区受益者四百七十八戸の關係になってまいりますが、この經理状況につきましては全額を一時借入といたしまして、市の農協から借り入れいたしております。金額的には三芳と館山合わせまして千二百六十六万二千円でございます。

○九番（辻田 実君） 先ほど、一〇番議員が質問した中でも非常に抽象的でわからなかったわけでございますけれども、この設計費という土地基盤設計費補助ということであるけども、道路等が市に返還されるので云々ということば等が出てきて、それがどのぐらいの面積になるのか。

それから、この設計費というのは純然たる設計費なのか。それとも土地の一部買収が入るような感じが取れるような答弁しているんですが、そこらへんがどうなっているかということなんです。したがって、今千二百二十六万を借り入れをしたということでございますけれども、この会計が本来であれば予算書にのらなければいけないんじゃないかというふうに考えられますけれども、なぜ予算がのっていないかということが、したがって、予算に

なぜのらなかったのかということ。

二番目には、予算にのらないということになると、どこで決算しなければならぬかということを御答弁願いたいわけです。

三番目に、設計費ということであるという説明していますけれどももう一度整理していただきたいわけです。純然たる設計費だけの費用なのか。そういうほかの雑があるとすれば、純然たる設計費が幾らで、雑が幾らか。これを答弁していただきたいということでございます。

それから、四番目に、千百十九万八千円設計費がかかるという答弁があったわけでございますけれども、この設計はどこに依頼したのか、わかりますか。依頼して契約済み、できておるのか、できておらないのか。ここまで額が出てきておるから、どっかの設計事務所なり依頼したと思うんですけども、どこなのかということ。

それから、五番目に、冒頭質問しましたように、館山の負担分一千七十二万に対して一回分として二百四十万ということになっているわけだという説明が始終繰り返されています。一回分ということは二回、三回ということであり得るかどうか。何を根拠にして二回、三回というんですか。館山市が設計費については地元市町村が全額負担しなければならないというような申し合わせなり、契約というのがあるんですか。一回分ということは解釈によると、一回は二百四十万出したと、もうこの次からは場合によつては組合の負担金乃至組合の運営費の中から出せるからいいということもあり得るかどうかということなんです。

その点がはじめてでなくて今までもそうですけども、ここで

三百四十万出したから来年は幾ら幾らということ、ここでもって承認を求めていることは二百四十万の補助金について承認を求めているのか。千七十二万について求めておるのかということなんです。はっきりしてもらいたい。千七十二万を認めたと上立つて今回は二百四十万が出るものなのか。説明の中では千七十二万というのが出ておりますけれども、ここでは二百四十万しか出てないわけなんです。その点が最初からわからないわけで、その点を明確にしてもらいたい。

とりあえず、以上五点について私は理解できませんので、ちょっと教えていただきたいと思っています。

○農産課長（石井 謀君） お答え申し上げます。

まず、道路はどのぐらいの面積かということですが、これはこの地区で、

（「設計費について、道路はいいです。」と呼ぶ声あり）
設計費につきましては、これはあくまでも道路の問題は付属的に申し上げましたんで、あくまでも受益者負担軽減ということと設計費を全額補助したいということでございます。

それから、設計費の会計につきまして、予算化が全然ないというところでございますが、これは土地改良区の事務所に連絡いたしましたところが、先ほど御説明申し上げましたように全額を三芳村あるいは館山市に補助を申請してございますので、歳入を補助金によってお願いしたいというような気持ちで内容は予算化してない。この支払いについては全額を市の農協から借り受けておるということでございます。

なお、この設計を依頼いたしましたのは、千葉県の土地改良連

合会に依頼してございます。

それから、今回二百四十万円の予算をお願いしたわけでございますが、館山市の負担分の千七十二万円について全額補助をお願い申し上げたい。こういうふうに考えておりますが、その第一回内払いとして今回二百四十万をお願いするわけでございます。

〇九番（辻田 実君） 第一点については、受益者負担になるからということで補助金を出すということでございますけれども、これは新しく質問になるわけですけれども、土地なりそれはどのぐらゐに推定されるのかどうか。この面についてはすでに設計は終わっておるのかどうか。終わっておればどのぐらゐの土地面積が出るかどうか。これはえらい問題になると思うんです。土地が提供されるところという条件で、市でやるということでもって補助金出すある面では売買と等しくなることでもって、こういう実態の中でもって、これがただやられるということについては問題が出てくるのではないか。

私は、金を出すそのものがどうこうということじゃない。場合によればもっと出さなければならぬんじゃないかと考えておる。しかしながら趣旨ですね。使途そういうものを明確にしない中で出るということについては、市の税金から出る公金であるから、その筋道だけを理解したいということでございますから。

それから、前からの答弁なんですけれども、どうしてもわからなかったのは、土地が受益者負担になるので、市のものにいずればなるので、この程度の負担することはけっこうだということだったんです。この程度ということ、そういう点が今いわれたようにはっきりしたわけでございますから、そうすると、どのぐらゐ

いの道路、どのぐらゐの面積のものが推定でもある。したがって、それについてはある程度契約乃至議事録そういうものがあるのか。ないのか。たいへんなものですから、いいですか。一千万からの金が出るわけでございますから、一〇番議員との質疑の中でその点理解しておりますけれども、やってみたいと纏延び、その他がわからないから今いえないということでございますから、あれですが、今私が質問した答弁になりますと、そういう道路が出るので受益者負担ということが明確になった。効果的要素があるからある程度はつきりするんじゃないかということでございますけれども、土地の面積はどのぐらゐ推定で出ておるのか。

二番目に、道路また纏延びそういうような土地については市に移管するのか。今のあれからいくと移管するようにも取れるし、そうでもないように取れる。非常にあいまいです。この時点であまいにすべきじゃないと思います。金銭もからみますので、そこらへんをはっきりしてもらいたい。

それからもう一つ、農協から千二百二十六万円を一時借入金でしたということでございますけれども、これはいつなされて、一時借入金の決算は四十七年度に決算報告の中に入っておりますか。それじゃなかったら教えていただきたい。さもなければ一時借入金が入金だけをおぼろげです。当然私は予算の見込みの中に一時借入金だけを処理されてもいいと思います。報告書として。金が動いたわけでしょ。今の答弁でいくとそういうものが全然見られない。

確かに、収入の面は市町村の議決を経なければ収入見込みは計上することは困難だから、それはある程度理解できます。しかし

ながら、今の答弁でまいますと、千二百二十六万館山農協で借りたということですから、金の授受があるわけですから、これに対する報告がなされるのが当然だと思う。これがないような決算というのは、まず中央改良区は私はやっておらないと思いますので、その点どこに書いてあるのか。どのように処理されておるのか。その点をお伺いしたいと思います。

○農産課長（石井 謀君） お答え申し上げます。

まず、どのぐらいの面積か、推定でもいいからというようなお話してございますが、東部地区におきまして各市道の計画が線引きされておるわけでございますが、その総体的な面積、現況におきましては概略七〇、二八一平米道路敷があるわけでございます。それに今度拡張しましょうというような計画が九七、〇二三平米この差が二六、七四二平米、約坪数にしまして八千百坪でございます。これだけの面積が拡張されるというふうな計画であるわけでございます。

それから、縄延びの關係につきまして、市に移管するかどうかということでございますが、この縄延びの分につきましては、あくまでも受益者の關係になってまいりますから、これは確定測量と、それから現在の土地台帳面積との差が今までの前例でまいりますと、多くなるのが普通でございます。そういうような關係上土地台帳と実測確定測量いたしました結果を見まして、その案分によりまして受益者に配分していくということが縄延びの処置でございます。

それから、農協からの借入はいつ借入してあるかというところでございますが、その書類は手もとにございませんので、早速調べ

まして御報告申し上げたいと思います。

なお、この内容につきまして、決算書に出ておらないといううりなことでございますが、これも確認いたしましたわけでございますが、先ほど申し上げましたように、この東部地区の關係で設計費ということで決算内容はできておらずに、この設計費についての支払いは全額を農協から借入して一時支払ってある。あとの歳入は補助金を見込んでおる。こういうふうな説明を受けております。

○九番（辻田 実君） 第一点でございすけれども、二六、七〇〇平米の道路敷について増加が見込まれるということでございまするけれども、これについては将来買取とか、その補償とかそういう問題は市との關係についてはあり得るかどうなのかということ。

というのは、土地云々ということが非常に出ておりますので、ここでもって一千万出すことによってこの問題については無償でもってくるからという前提のような気がするわけです。それとこれとは別だということでもって二六、七〇〇平米というのはかなり大きい坪数になるわけです。八千坪の土地になるわけでございますけれども、その八千坪の土地そのものが買取やなんかでもって市道ですか、農道として返還されるので、これに対する補償乃至購入金というのは別途出てこないような仕組みになっておるのか。それはそれでもって別なのか。今のあれでいきますと、それが精算されて将来そういう請求権はないというふうな形の答弁でございするけれども、その点について明確にしてもらいたい。どうということではないんですよ。将来それが出てくるということがあればですと、その点はっきりしてもらわなければ困りますので

その点についてはどうか。再確認したいと思います。

それから、農協決算の中でも出て、借入でしたから報告せずには俗にいう裏金とか、そういう形の裏決算とかいう、これはことばがわるいけども、一般的にそういうたぐいのものをいうわけですけども、そういう金で農協から千二百万の金が出てなければいいんですけども、これは土地改良区として借りたと思うんです。土地改良区で借りたからそれに対して市町村の補助金をもらいたいという形でもって出てこなければ、何か土地改良区そのもののに対しての信頼というんですか、裏金があるのかな。これだけじゃなくて、ほかにもそういう決算をしておるんじゃないかという印象が出てくるわけなんです。そうじゃございませんか。一般的に考えて。

これが、わずかの金で給料とか、税金のあれだとか、社会保険のあれを一時的たてかえというものは別として、これは基本事業です設計というのは。設計によっていろいろな工事が始まってそうしていくわけです。その基本的な家をつくるにしても、区画整理にしても、まず設計をして、その設計代を払って、その上に工事契約をしていくという基本的な金についてすでに千二百万を越えるところの千二百二十六万の金を農協から借り入れて、しかもそれが県の土地改良連合会に対して支払われたと思います。当然今の答弁で支払われた。支払われたという決算が会員やなんかにはかられないということになると、余分なことかもしれないませんが、土地改良区の役員としても運営がむずかしくなるのではないか。

一般のところでしたら、これだけの金が動いて決算報告して別

会計だということをやったら、普通の組合員が聞いたら納得しませんよ。汚職がなくなつた。その点を私はこの報告事項と関連して質問するのはあたりまえじゃないかと思うんです。

その点についてはもう一度あれしますけども、土地連合会については千二百万はもう支払われたわけでしょう。支払われたら何かの形で報告がなければ、もしそれが市の収入金がなかったと、ここで否決されたというようなことが起きた場合にだれが払うかということですか。理事長の責任なんですか。個人の資格でやったということになりますか。組合全体のことですか。組合の会費で負担しなければならぬということでしょう。そういうのを知らないで出てきたということになればたいへんなことですよ。

簡単なことでしょう。借入金には農協から幾ら、この支払いとしては幾ら、収入についてはまた別途ということで探かしても、それを報告されてないということ自身は、そういうところが不明なんですけども、その点について他の土地改良区の問題になりますから打ち切りますから。

私は、こういうことでもって質問するということについてはどうなんでしょうか。

(「議長、休憩」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後一時三十五分 休 憩

午後三時二十六分 再 開

○議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

九番議員君に対する答弁を求めます。

○市長職務代理者助役 (島山 伝君) お答え申し上げます。

東部地区基盤整備の設計補助につきましては貴重な財源の中から補助するわけでございますので、その補助すべき根拠、そしてまた行くえ、そしてまたその効果等は確実にこれを精査して慎重を期すべきでございましたのに、このたびはこれらについての関係文書がそろえなかったことにつきまして、たいへん私申しわけないと思うわけでございます。

今後、早急にこの書類等調整させまして、後日機会を見て議員の皆さん方に御報告申し上げたいと思っております。今後、こういうことのないように十分注意する覚悟でございますので、よろしくひとつ御了承いただきたいと思います。よろしく願います。

○九番（辻田 実君） 続きまして、一〇ページの県立博物館建設寄付金の五百万円でございますけれども、ただいまの質疑の中で明らかにされましたように、この東部地区基盤整備設計費の補助等につきましては、千七十二万を補助しなければならぬという非常に差し迫った段階、さらにはこの金ももうすでに農協から借入されて利息を払いながら行なわれている。決算されている。こういう状況にあるわけでございますけれども、こういう中においてこの博物館の寄付金五百万円についてここで補正を組んですぐに支払わなければならないような性質なのか、約束についてこの期限があるのかどうか。

先ほど、一〇番議員との討論の中において違反云々の問題が論議されておりましたけれども、その問題についてはよくわかりましたので、この博物館はあくまでも県の事業でございます。

館山市は、千葉県の中においても地方交付税をもらってある非

常に貧しい市でございます。そういう中において、この五百万円について期日があるのかどうか。その点についてまずお伺いしたいと思います。

○社会教育課長（佐野哲男君） ただいまの寄付金の期限でございますが、いついつまでというはっきりしたことはございませんが完成間近でございますので、このたびこれをお願いしたようなわけでございます。

○九番（辻田 実君） これは、とにかく期限がないわけですね。その点について、完成間近だから完成までに納めるとかそういうことなんですか。そこらへんは非常に大事なことで、金の伴うことです。完成までとくに払うとか、そういう約束ごとがあるのかどうか。非常にしつこいようですが、先ほどの問題もありますので、何月何日までということか、完成間近ということの点についてももう少し細かく期日の点について。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えいたします。完成いたしましたから五百万円寄付するというそういうことになっております。

○九番（辻田 実君） わかりました。
もう一点、九ページの農林水産業費の中の稚魚の購入費でございます。十二カ所について三万匹の六〇〇キロ程度のものを購入ということでございますけれども、これをのちに成績によって返済をしていくということでございますけれども、返済要綱そういうものはできておるのか。できておらないと、ここで先般説明したときには返済してもらおうという方向でいるということでございますけれども、これはかなり契約的に行なうのかどうか。

私も、この問題についていろいろ印旛郡のほうの議員等に聞いてみたんですけども、なかなか養魚でもって金をあげるといふことは至難のわざじゃないぞといふことで、かなり直接やっている人、また手賀沼から仕入れるといふことでございますけども、手賀沼周辺の二、三の議員から聞いたんですけども、非常に容易じゃないといふことをいわれておりました。私にはどういふ経路で入ったのかというふうなことで、非常にいっぱい業者にくわされたなというふうな感じのことを忠告してくれた人があるわけでございます。

私は、その内容がどういふことかよくわかりませんが、かなり実験的なデータ、結果そういうものが出てない中で、この前の説明ですと、一年とか二年先に貸し付けた額については売上げの中から返済してもらえといふようなことをいっておられましたけども、かなり義務的にこの売上げ金がなくても返済してもらいという、そういう項目をもつのか。

たとえば、売上げ金が出なかった場合とか、あまり育たなかった場合とか、そういったことについては返済しなくてもいいのかどうか。具体的に明確にしたいだと思います。

○農産課長（石井 謙君） この関係につきましては、ため池管理者に委託いたしました一応契約をいたしたいと思っておりますが、予算の議決をいただきまして、その内容を検討いたしたいといふふうに考えます。

稚魚代に相当する額を来年度お返ししていただくような考え方であるわけでございますが、天災とか、そういうような関係が生じた場合については、そのときに契約の内容等にうたいまして処

置していきたいと思っております。

○九番（辻田 実君） これはドジョウとか、そういうものについて前例があるからいふんですけども、稚魚代返してもらいということですから、契約の段階で云々といふことでですけども、天災地変の場合には当然だと思ふんですが、私はひょっとするとドジョウと同じような結果に近いといふ気もしております。

ドジョウの場合には、市から補助金ももらったので、補助金でやったんだから売上げがなくても損がなかったという形のあれが非常に多いわけでございます。若干売れたものもあるけども、補助金のせだからそれだけもうかったんだ。あれは自分で一切がっさい仕入れてやったんでは赤字だったといふことを非常に多く聞いておるわけでございます。

そういうことでいきますと、売上げ金があがらなくても、そういう稚魚代は天災地変以外はもらうといふことなのかどうか。この点について売上げ金があった場合には、売上げ金の利益の中から相当分を返してもらいという内容なのか。その点について一応お伺いしておきたいと思っております。

○農産課長（石井 謙君） 別に天災等がない限りにおいては、稚魚代は返してもらいというふうなことでございます。

○一五番（和田 一郎君） 今、コイの稚魚のことで辻田議員からなにか懸念されるような質問があったんですが、実は、私のほうで十年來三カ所のため池を利用しておるわけで、市の農産課、水産課のお世話になって稚魚の放流をしておるわけで、その結果は、釣堀等を利用しておる部落もあります。また釣らないで最後に池をはたいてそのコイを部落で分けていろいろやっております。部落に

よって釣堀として利用さしても、部落の経費ぐらいどうやらまかなってある部落もありますし、私どもの仲間はふだんあまり釣らせないで最後に池をはいたときに処分したのでありますが、過去三回ぐらい池をはいた経験がありますが、別に宣伝したわけではありませんが、購入希望者が殺到いたしましたので、あとから来た人はコイが買えない。そんなようなこともあったのでありますが、今度はだいたい市内でもたくさん部落がそれを希望して放流されるということなのでありますが、うちのほうでも放流しますが、その販売とか、何とかに困るようなことがあってはいけませんので、市の広報等を利用してこいうところにコイがにがしであるから、一日幾らで釣らせるとか、またいついっかせきをはたくからコイの希望の方は行って買ったらいだろうということでも市の広報等で公表するお考えがあるかないか。それを一つお尋ねいたします。

○ 農産課長（石井 謀君） 事業を開始しましたならばなるべくPRいたしまして、多くの方に利用させていただくというふうに考えております。もちろん、広報等にも登載しましてPRいたしたいと思います。

○ 一五番（和田一郎君） ぜひ、そのようなお願いいたします。

○ 二二番（田村源治郎君） 七ページの教育費国庫補助金三十万スポーツ振興補助金にあげてあるけども、歳出の一〇ページに対してそれだけの金が見てみると、教材購入費とか、剣道だとかいけれども、これは庁用器具だとか、それから補助金のスポーツが一萬六千円、あとはスポーツの少年育成金が九万、館山市婦人スポーツクラブ七萬四千円は不用経費、これは三十万というが使っ

てない。国庫補助金の三十万は全然出してなくて、歳出には出してないということをひとつ説明してください。

次は、農産振興費であるけれども、ちょっと疑問に思うのは地元負担金は全然ない。稚魚の金は返してもらうんだ。ただ、ため池があったから稚魚をいけてやるということになると、雨が降った場合逃げちゃう。地元も負担して網を張って逃げないようにしないと、稚魚がどんどん逃げ出しちゃう。そういう懸念はないか。

これは、農産振興費であるから、やるからには相手が受け入れ体制がなくちゃいかぬ。農産会にせきなんかがあるけれども、逃げてもいいんだ。ある程度歩どまりがあればいいんだ。稚魚が逃げないように網を張るとか、地元の負担金、その金を返してもらいよりも、むしろ大きな利益をあげるためにやってもらうのであって、ただ釣堀というだけでは大きな利益はあがらない。相手の受け入れ体制をどう考えておるかという点。二つをお聞きしたいと思います。

○ 体育課長（川上賢爾君） お答え申し上げます。

国この補助金は、地域住民のスポーツ活動を振興するために館山市が指定されましていただいた補助金でございます。

したがって、地域住民のスポーツ活動ということで、私も三月の議会で御議決いただきましたスポーツ組織の育成これも二十二万七千五百円、それからスポーツ教室これはバレーとか卓球教室、あるいは剣道、弓道こういったような関係の教室に使わしていただく金が二十万、それから地区の体育大会の参加の記念品代が六万、それから寒中水泳とか、あるいは体力づくりの器具の整備費で二十九万二千円。こういったような関係の事業所要額

が九十三万九千円ということになってゐるわけでございます。

そのうちの補助対象経費として八十八万九千円、そしてそれに対する国の補助金が四十万ということで今回お願いいたしました補助対象経費の中で、館山市の婦人スポーツクラブの補助金の七万四千円を減額補正していただきまして、六万二千円の報償金と一万二千円の食糧費をお願いをしたような次第でございます。

○農産課長（石井 謀君）

農業振興費の稚魚の関係でございます

が、もちろん御指摘のように逃亡等は最小限度に食いとめなければならぬわけでございます。そういうような関係で、その処置といたしましては、おのおの管理者にお願いしまして当然防護さくを考えていただくというふうに考えております。

○二二番（田村源治郎君）

歳入において三十万出してある。この

三十万は予算に使ってあって、今度三十万きたんだから歳入の面で、この三十万の金がいかに使っているかということを明確に記載してくれ。予算をつくったときのあれを聞いておるわけではない。ここに三十万使っていないから、それの一つ。

それから、次の農業振興費であるけれども、振興費は設備してくればそれでいいのか。簡単に三十万やるから設備してください。これは一年でなせるか。二年でなせるかわからない。しっかりと相手が受け入れ体制を、網を張るとか、仮りに鳥を飼っても鳥箱がひっくりかえれば何にもならない。そうでしょう。振興策をやっておるんだから、受け入れ体制をちゃんと見て、網を張るとか逃げないようにする。仮りにいうなら、ドジョウでも失敗してある。ただ、補助金出してやったらこれでいいのか。出した以上は月一回、二回見て回わってやらなければならぬ。ただ、市で

くれたからいいや、井戸の中ではないんだから、井戸の中でコイを扱うわけではないんだから、やっぱり受け入れ体制を確実に網を張って逃げないようにするとか、あるいは稚魚が死なないうような水質だとか何とか検査するとか、ただ単に、みんな市がコイが死んでもいいから、生きてもいいからというならみんなやりますよ。これは当然でしょう。それらを注意していただきたいと思ひます。

あとの説明は、歳入のスポーツのあれをひとつ説明してください。もう一回。

○体育課長（川上賢爾君）

田村議員さんのおっしゃるとおりでございます。

ただ、あくまでも先般の三月の議会で体力づくりを一つの柱にしていたら、私ども住民のスポーツ活動の振興の事業をやっております関係上、国の補助金が三十万新たにまいりましたけれども、従来の予算の中で補助対象経費としてさらに今回お願いする額を加えていくようにいたしたいということで今般お願いをしたわけでございますので、御了承いただきたいと思ひます。

○二二番（田村源治郎君）

三十万のこの金が教材購入費と書いて

あるけれども、この剣道なんかは歳出の二十五万、これは予算に組めばいいわけであって、そうでしょう。予算で組めばいい。職員が使うかもしれないが剣道具、これらは一般並みに扱うなら市が市長に頼んでやるべき仕事じゃなかるう。この三十万という金はおそらく出てない。国からスポーツ振興補助金として三十万きているものが、新しく三十万に対してその受け入れ体制はやっぱり保健体育に対してスポーツの教育費に使わなければならない金

だろうと思う。予算は予算としてやってしまつてあるじゃないか。それでしょ。新しい金が新しく生まれたので、一般の社会的なスポーツに使わなければならない。市のものにつぎ込んだスポーツに使う。これでいいんだということはおそろくなり立たないだろうと思う。剣道防具なんか買うと市のものになる。予算に計上すべきものだと思う。そうしたら、国からもらつたスポーツ振興費として市の職員が取つてしまふ二十五万じゃないですか。その点はつきりしていただきたい。新しい金が入つたんだから、新しいスポーツの育成に使うべきだ。何か混合したんじゃないか。新しくきた金を自分たちいいように使つておるんじゃないかという観点になり立つんじゃないか、その点はつきり。

○体育課長(川上賢爾君) 備品購入費の二十五万の教材購入費でございすが、これは三十万の補助金とは別個のものでございす。というのは、補助対象経費とは別個のものでございす。と申しますのは、最近になりまして壮年剣道クラブが一チーム三十三名でございすが、結成されるはこびになつたものでございす。したがつて、この剣道クラブに防具を購入をしてということ二十五万を計上したものでございす。

三十万は、地域住民のスポーツ活動これはやはり同じことでございすけれども、先ほども私が御説明申し上げましたように、スポーツ組織の育成やスポーツ教室や地区の体育大会等の参加、寒中水泳こういったものを含めまして使わしていただくということとでお願いをした次第でございす。

○二二番(田村源治郎君) 二十五万はわかりました。

そうすると、二十五万は別から持つてきた。特別に加えた補正

に持つてきた三十万という金はどこにいつてゐるんだか。前は前でもう使つてある予算で、新しく三十万もらつたならここで補正が保健体育のほうは五十五万の補正額にならなければならぬものが、今度もらつた三十万は前に使われてゐる。おかしいじゃないですか。それでしょ。歳入三十万もらつて、歳出のほうはその金の三十万が出てこない。おかしいものじゃないですか。私はそれを聞きたい。その点はどうか。

○体育課長(川上賢爾君) この三十万の補助金は、市が現在体力づくり、体育振興に使われるために国が特別に館山市を指定をいたしまして、補助金として交付されるものでございす。

したがしまして、当初におきましては国の補助金を十万を予定をしたわけでございす。その十万円と、さらに今回の三十万円をいたしまして、現在館山市でこの地域住民のスポーツ活動の振興に使われる事業所要額が、三月議会でお認めいただいた額が九十三万九千円あるわけでございす。その九十三万九千円に対する国の補助金入れました使わしていただくというようなことでございすので、今回補正をいたしましたものは三十万に対するさらに三十万の歳出ということではなくて、財源として今までの財源がそういうことで御議決をいただきましたので、それに加えたいものとしてここに報償六万二千元、食糧費一万二千元をお願いをしたやうなわけでございす。

○二二番(田村源治郎君) 了解。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。―御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

討

論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この補正予算に反対する討論を行ないます。

質疑の中で明らかになりましたように、中央土地改良区に対する助成金の問題ですが、この二百四十万が受益者負担としての一十七十二万の内金ということでこれが設計費として計上されているというようですが、この額の補助金の申請を通じて問題点が指摘されたわけです。それは中央土地改良区の決算あるいは事業報告そういうような根拠が明らかにされていないということで疑問が出されました。

それに対して、市長代理からその点に対しては遺憾であった。

そういうことのないようにして後刻市長とも話し合った上で報告するというような話ですから、またこの補助金については受益者負担の軽減ということを考えますと、やはり農民の現在の実情から見て、これは当然承認しなければならぬ問題だと思ふんです。しかし、この機会に一言要望したいことがあるわけですが、それはこの質疑の中で、当初は市道の拡幅の土地買収費としてとい

うような金額が説明があったわけです。これは設計費の間違ひだというふうにあとでははつきりしましたが、一応私はこれは受益者負担に対する助成でありますから、農産課長の話では縄延びの土地については受益者に案分するということの方が回答されておりました。

私たちは、千七十二万を助成するわけですから、当然縄延びについては市が道路の拡幅そういうようなことでこの土地を買収するということとはまた起こってくださると思ふんですが、縄延びがあれば、従来どこでもやっておるところでは、農道等の関係でやはり道路を拡幅するというようなことはやっているわけですから、当然縄延びの中で拡幅の土地の問題は、個々の受益者で案分するよりな関係は原則としてはあると思いますが、道路をよくするという点から、そういう点ではひとつ受益者のほうでも考えて、拡幅分については市に無償で提供するようなそういう方向にもっていった方がいいということを一つ要望しておきたいと思ひます。反対するのは、この博物館の寄付金の五百万円ですが、これは当初予算と含めて一千万円の寄付金に対しては、私は当初予算の中でも反対してまいりました。

質疑の中でも明らかにしたように、地方財政法の第二条、第九条、第二十八条の二項に違反すると、また県の議会でも、県当局は市町村に対して寄付を要請しないということをはっきり答弁しているわけですから、そういうたてまえに立って、市でも筋の通らないそういうような寄付については拒否していくのがあたりまえだと思ふんです。

こういうことをやっぱりそのままにしておけば、いろいろな意

味で受益者負担ということで負担金や寄付がやはり従来と同じような要求されてくるんじゃないか。

これは、明らかに間違いでありますから、受益者負担についてもこれは財政法の中では区域内のどこの市町村にとっても、そこに何かができるということは、全部が利益になるわけです。ですから、それによって館山市だけが利益を受けるというようなことは、できたところではみんな同じように利益を受けているわけですから、当然県が全額負担してやるのがあたりまえだと思ひます。

こういう点から、市当局の説明は、そういう法に違反するといふようなことは認めながら寄付を出しているという点で、私としてはこれは了承できません。

以上の意味で、この補正予算には反対いたします。

○九番（辻田 実君） この補正予算につきましては、私は賛成をいたす立場から御意見を申し述べたいと思います。

非常に財政の苦しい中でやりくりされた予算だということが非常によくわかります。身をつまされるような感じがするわけでございます。

そこで、先ほど来、論議になっておりますが、社会教育費の中の県立安房博物館の寄付についてでございます。これについてはいろいろ問題また地方財政法の解釈の問題等はあるかと思ひます。しかしながら、当初予算において一応五百万円を計上し、これを議決したということ、そして県と市において当時私一議員としては博物館の寄付そのものは反対ではございませんけれども、市と県との約束がなされたように見受けられるし、その約束につい

ての真意ということについては尊重されなければならないという面があるかと思ひます。したがしまして、その面についてはこの五百万円の予算計上ということについては、私は消極的ながらも賛成せざるを得ないというふうに考えております。

そこで、一つ要望をつけ加えたいわけでございます。先ほどの論議の中で明らかにしましたように、東部地区の基盤整備設計補助金について二百四十万という数字が出てきておるといふことでございます。本来であれば一千七十二万を支出しなければならぬ。

これに対して、すでに耕地整理組合においては農協から千二百六十六万の借入金をしてある。これについては日一日と利息がかかっておるといふこと。そうして現在の館山市の農民の生活実態の中においてこの補助金を出すという観点に立てば一日も早く、また市の財政の円滑化、利用の面からいっても、私は千七十二万の全額を早急に支払って、農協との貸し借りをなくすという立場に立たなければならぬというふうに考えられるわけでありまして、そこで今、この予算の組みかえといふことは、この際、手続的に困難がございますので、博物館の寄付金については先ほどの質問の中で明らかにしましたように、期限が明記されております。県については全国でも非常に裕福な財政県でございます。

したがしまして、この予算を議決したからといって、すぐに来月なり、再来月払わなくても、年度内に支払っても支障がないんじゃないかというふうに思われます。したがしまして、この寄付金五百万円については議決してこの年度内いっばいに払わなければならぬ義務はあるかと思ひますが、できるだけ耕地整理組合

等の差し迫った問題があるので、これらについては当然十二月の議会等について補正予算が組まれるだろうと思うし、その財源としてもある程度この五百万円の支出については考慮して、そうして優先的に東部の耕地整理組合に対しての負担金を払って、場合によってはこの予算で議決して予算のやりくりがつかない場合には未払いというんですか、そういうようなことでもって持ち越すという、不用額にするぐらいにしても優先すべきじゃないか。

やはりこの際、ちびった予算でございするから、館山市の農民が負担して払う金が大切なのか、県の博物館に法律的疑義を相当残しておるもの、片方は金持に対して負担金を払うというその度合いを判断されて、この五百万円の執行については十分考慮していただきたい。配慮して執行していただきたいということを要望して、私はこの補正予算について賛成するものでございます。

○六番（栗原一雄君） 議案第六十三号昭和四十八年度の館山市一般会計補正予算第二号について賛成するものでございます。

今回の補正予算において一番大きな補正額は、社会教育費の五百万円ですが、文化都市館山の建設と常にいわれておりますが、施設はまだ少ないわけでございます。

観光的メリットから考えますと、一般的観光開発企業との規模の相違は相当大きな開きがありますが、地理的条件から水族館、博物館等の総合利用により効果もあるものと思います。

文化都市館山という意味からは大いに前進であろうと考え、この議案に対して賛成いたします。

○一五番（和田一郎君） この補正予算に賛成の立場から討論を行います。ただ一点に限り討論いたします。

東部地区基盤整備設計補助として二百四十万がいろいろと論議されておりますが、これは農家経済発展のために基盤整備が重要なことは論をまちませんが、その基盤整備によって出るメリットというものは、はかりしれないものがあります。

その一点をあげますと、農村地域の市道も車の発達、農家経済の発展に伴いまして、当然改修、拡張しなければいけない時期にきているわけでございますが、これを市が用地を買収して道路をつくるということになりますと、多額の費用がかかるわけであり

ます。

たとえば、東部地区だけにいたしましたとしても、今の道路幅にするのには八千余坪の土地買収が必要である。これをまた、西部地区に話を移しましたも、おそらくそれ以上の土地買収と道路整備費がかかるのでありますが、この基盤整備に関係して道路整備をするならば、全く市からの道路整備費用というものは一銭も使わずにりっぱな道路ができるのであります。

かような意味から、この基盤整備、圃場の補助金を支出することとに満場の皆さま方の御賛同をお願いいたしまして、私の討論を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

よって、討論を終ります。

採

決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案に対する採決は起立により行ないます。本案を原案どおり

可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉

会 午後四時十分閉会

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって、会議規則第七条の規定により本日をもって第三回市議定会定例会を閉会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

よって、本定例会は、これにて閉会することに決しました。

○本日の会議に付した事件

一、報告第二号

一、議案第六十号乃至議案第六十三号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議會議員

渡邊昭夫

館山市議會議員

也月山

